

経営比較分析表（令和2年度決算）

北海道砂川市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	28	対象	ト透I未訓ガ	救護が感へ災輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
16,505	53,186	-	第2種該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

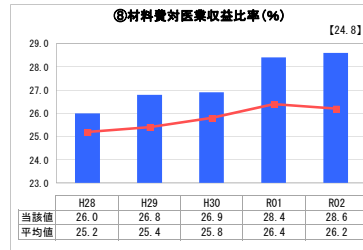
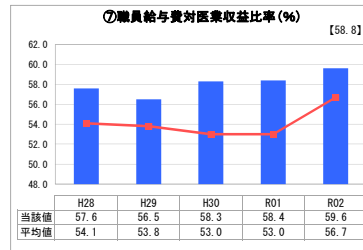
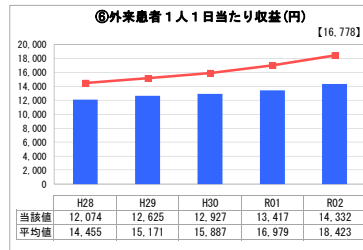
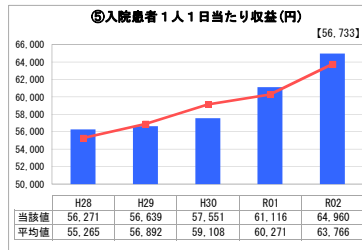
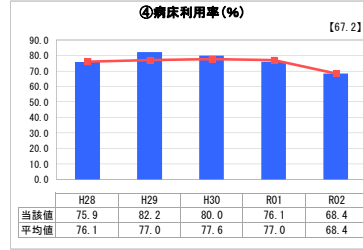
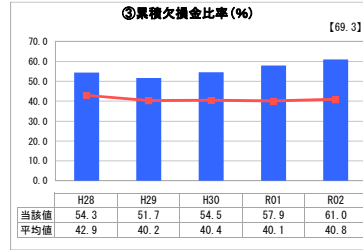
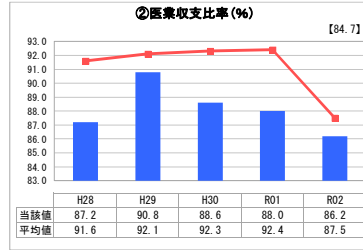
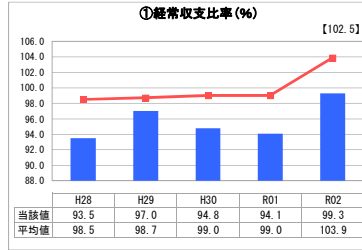
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪審判病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
408	-	6
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
80	4	498
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
408	-	408

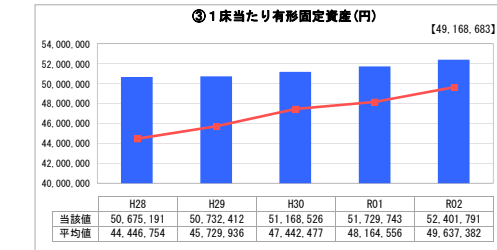
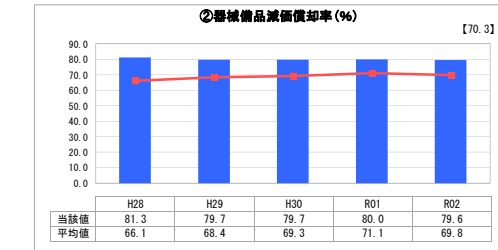
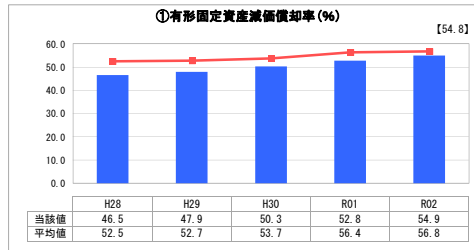
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は、急性期以外の病床機能を有し、地域センター病院や地域救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院の地、多数の指定を受け、365日断らない救急医療の実施や高度急性期から訪問看護、見取りなどの在宅・予防医療まで、幅広い医療を展開し、中堅医療圏全体から患者を受け入れており、地域医療の充実に努めております。

また、大学病院との連携や、圏域内の医療機関、行政、介護事業所、薬局等と連携し、地域包括ケアシステムの構築を推進しております。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 「経常収支比率」、「医療収支比率」は病院改革に伴う建物、器械備品の減価償却費が多額であること、新型コロナウイルス感染症に伴う補助金で一定程度補填されたものの診療報酬や、患者の受診控え等が影響し100%を下回る厳しい状況にあります。
- 「累積欠損金比率」においても、同様に減価償却費が多額であることから比率が高くなっています。
- 「病床利用率」は、新型コロナウイルス感染症による影響により平均値を下回っていないものの近年まれにみる病床利用率となったところである。
- 「入院患者及び外来患者1人1日当たり収益」は、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時診療報酬があったことや、外来については平均値を下回るものの職員が一丸となった増収対策を行っていることから年々増加しているところである。
- 「職員給与費対医療収益比率」の増加は、現行の診療報酬に係る政策が、技術や人的サービスに再配分され医師、看護師等を増員し、医療提供能力を向上させることで診療単価の増加を目指す方向へ変化してきたこと、また、大きく変化する医療情勢に素早く対応するため、医療スタッフを確保していることでもあります。新型コロナウイルス感染症による医療収益の悪化が影響しています。
- 「材料費対医療収益比率」は、薬品の引下げや高価な抗がん剤等を使用する患者の増加もありますが、新型コロナウイルス感染症による医療収益悪化の影響により、前年度と比較して増加しています。高度急性期医療を担う当院としては避けがたい問題でありますので、今後においてもベンチマークなど活用し購入価格の見直しに努めてまいります。

2. 老朽化の状況について

当院は平成22年10月に本館が閉院し、平成23年10月には南館が閉院、そして平成24年10月に立休駐車場の供用が開始され、平成20年から進めていた改革事業が全て終了したところであります。

また、平成22年10月閉院時には医療機器の更新等もとり、安全・安心の医療を提供できる環境を整えたところです。

①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率が年々高くなる傾向にあるのは、改革時に更新等を行った医療機器が耐用年数に達しているものですが、平均値を下回っているところでもあります。③1床当たり有形固定資産においては高くなる傾向にありますが、当院の役割から、感染症対策や放射線機器をはじめとする高価な医療機器については、高度化する医療等に対応するため計画的な投資を行っているもので、今後においても計画的、効率的な投資に努めてまいります。

全体総括

令和2年度は、最終年度となる「砂川市立病院改革プラン（平成29年度～平成32年度）」に基づき、地域に求められる医療を提供するため、施設整備や医療機器整備の充実、拡大を図り、地域センター病院、地域がん診療連携拠点病院等の役割を果たすよう努めてまいりました。

収益では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により診療制限や患者の受診控え等の影響により診療収益が大幅に減少したところですが、新型コロナウイルス感染症に伴う補助金により一定程度補填されたと考えています。

費用では病院建設に係る企業債の元利償還金や減価償却費などにより、純利益を計上するには至りませんでした。

キャッシュ・フローでは資金が若干ではあるものの増加し、引き続き厳しい経営状況ではありますが、医療圏における中核病院として安定的、継続的な医療を提供するべく、経営の強化を図り、今後においても健全経営に努めてまいります。